令和４年度学校評価　まとめ（教職員）

		質問項目	回答平均	改善策
学校教育目標の具現化	1	1 学校教育目標（ 学年目標 ・学級目標 ）を意識した指導 支援を行っている。	2.5	
	2	2 元気なあいさつができるよう指導している。	2.35	・生徒指導・教育相談委員会で毎月振り返りをしている。Aになるために、繰り返し声かけする。教師が見本を見せる。挨拶の上手な児童を褒める。 ・生活委員会の挨拶運動を、代表委員会も交えた学校全体の取り組みにしてはどうか。 ・教室内であいさつカレンダーのようなあいさつの見える化グッズを作る。 ・あいさつカレンダーの振り返り。 ・教師自ら、手本となるような挨拶を行う。 ・あいさつカレンダーの取組を通して、日々振り返りをしたり、教師自らも元気の挨拶をしていく。 **教師が模範を示すことが大事であり、挨拶指導を率先して行うことが何より重要。その上で、挨拶カレンダーなどの可視化できるものを日々の指導に取り入れることが必要と考える。**
	3	3 子供同士が進んで学び合えるよう、指導・支援を行っている。	2.42	・自分から発表できる児童を1年かけて育てる。「一日一回は発表しよう」できたときは褒めるを繰り返す。 ・日頃から隣同士や小グループでの話し合活動を取り入れる。 ・教科ごと、単位ごとにペア学習やグループ学習の具体的な計画を立てる。 ・1週間に1度は算数や国語の問題に対してグループで解く時間を設ける。 ・授業の中でのペアトークやグループトークの場を設定したり、体育では、お互いの実技を見合う場を設定している。 ・授業の中でペアでの話し合いから始めて経験を増やしていく。 学習の中で、話合い活動や班活動を取り入れ、友達同士意見の出し合える場を設けている。 **毎日１回は発表するという事を継続することが習慣につながると考える。まずは、低学年からペア学習での意見交換を行うことをし、中学年・高学年ではグループや小集団での学習につなげていくことが必要と考える。**
	4	4 教職員が共に学び、温かい職場を作っている。	2.42	・何でも話せる雰囲気づくりに努める。 ・若い先生方に日頃の授業を見てもらい、互いに学ぶ環境を作る。 ・お互いに空き時間を作り合い、授業補助などに積極的に入り、放課後のコミュニケーション時間の増加目指す。 ・職員室では、積極的にコミュニケーションをとっている。 ・情報の共有をしていく。（どんなに些細なことでも伝え合うよう意識していく。） ・職員間のコミュニケーションを図り、何でも話合える職場作りをしていく。 **まずは、悩みを相談できる職場環境であることが重要。その上で、生徒指導や学習指導等、指導技術を向上させるためにはベテラン教師とチームを組んで指導することや授業を互いに見合うことで指導方法の向上に繋げていく。**
	5	5 家庭・地域から信頼される開かれた学校づくりに貢献している。（学校応援団・各種たより発行）	2.38	・児童の活動にどんどん入っていただく。外国語、家庭科、低学年校外学習見守り、読み聞かせ等 ・学校応援団の位置づけを明確にする。（どの教科、学年など） ・些細なことでも家庭にこまめに連絡する。 ・学級通信や、週案、懇談会で日常の様子を見せるなど、学校での様子を伝えている。 ・情報の共有をしていく。（どんなに些細なことでも伝え合うよう意識していく。） ・報告・連絡・相談を行う。学校での教育活動を知らせる。コロナ禍ではあるが、児童と地域の方と一緒に取り組める学習を考えていく。 **コロナ後を見据えて、学校応援団の方々については感染防止と児童の教育活動の支援の割合を見直していく。また、家庭との連携という面では、些細なことも連絡していく。手紙や学校ＨＰを通じて学校での取組を地域や家庭に発信していく。**
	6	6 学びの１０か条は継続的に指導している。	2.42	・いつでも確認できるよう、掲示場所を統一した。 ・振り返りを定期的に行い、自分を見つめる時間を作る。 ・「今週の10か条」を決めて、週に１つ決めた学びの10か条を意識していく。 ・学びの10か条を掲示しているので、その掲示を見ながらみんなで読む時間をつくる。 ・毎朝十か条の中から一つ今日のめあてを決めて、帰りの会で振り返りをしている。 ・教室掲示に目を向ける。できることからクラスで取り組む。 **掲示場所を統一させることや10か条の内、何か一つだけ重点を置くものを決めて取り組むなどの方法を全学級で行っていく。一方で、「学びの10ヶ条」自体の見直しも必要と考えている。（数が多い、もっと他にも課題などがあるなど）**
	7	7 授業では、「何を学ばせるか、どのような力をつけるのか、どのような学ばせ方をするか」考えて行っている。	2.5	
	8	8 授業では、「なぜ」「どうして」を意識して行っている。	2.42	・特に単元のはじめの興味関心を引き付けられるような教材研究を行う。 ・各授業のはじまりに質問タイムを設ける。 ・発問を意識し、児童に答えさせる授業を組み立てる。（教師の知識教え込みにならない授業） ・子供同士（中高学年）が質問しあえるようにする。 **授業の組み立ての基本は発問からである。優れた発問から児童の意見や疑問を引き出し、課題を解決させるために児童に思考・判断・表現していき理解するものとなっている。そのプロセスを大事にすることが「分かる授業」「楽しい授業」と考えており、今後は全教員で実践していくべきものと考えている。**

学習指導	9	9 主体的・対話的で深い学びを実践している。	2.23	・自分から発表する積極性を育み、話し合い活動を入れてお互い学びあう場を意識して作る。 ・教科ごと、単位ごとにペア学習やグループ学習の具体的な計画を立てる。 ・わからない問題等に直面した時は、先生ではなく周囲の友達と話し合うタイムを作る。 ・各単元において、どの場面で実践できるか、単元計画に折り込み、実践している。 **子供からの「なぜ」「どうして」を大切にしていく。子供が受け身にならない授業づくりの研修をしていく。**
	10	10 学習者用端末を活用した授業を行っている。	2.15	・低学年はタイピング等が難しいが、意識して行うようにする。 ・平日の宿題もEライブラリーから出す。 ・デジタル教科書、ホワイトボード、チームズ、動画視聴、資料作成など、様々な教科において継続的に使用している。 ・児童が分かる、興味を持って取り組める教材、教具の準備をおこなった。タブレットを使用の際は、注意事項をしっかりと伝え、教師側も見届けをしっかりと行う。 ・学年間での教えあい。 **低学年はローマ字を習っていないので、まずはゲーム感覚でタイピングから始める。中・高学年は調べ学習やｅライブラリーなどで積極的にタブレット端末を活用していく。**
	11	11 基礎・基本を徹底した授業を行っている。	2.65	
	12	12 特別の教科「道徳」の授業は計画的に実施している。	2.27	・保護者に一度は参観してもらい、普段の道徳教育を伝える。 ・35時間実施する。 ・1時間の流れが分かる板書を掲示する。 ・学年だよりに乗せた内容を確実に行うようにする。 ・学年間でローテーションで授業を行い、年間での予定を事前に立てる。 ・計画的に実施し、できなかった週は、他の授業時間に実施している。 ・教育課程に沿って、年間予定組む。 ・学校課題研究から学んだことを生かして計画的に取り組むことができている。 **道徳に限ったことではありませんが、授業の流れが分かる板書を全クラスで実践していく。年間１回は道徳の授業参観を行い、本校の道徳的実践力の向上について見ていただく機会を作る。**
生徒指導教育相談	13	13 子供について、情報発信や情報共有に努めている。	2.46	・電話や連絡帳、学級通信等で、学級の様子を随時伝えるようにする。 ・電話連絡だけに縛られず、連絡帳でのやり取りなど情報共有の継続に努める。 **・週一の学年会だけでなく、気になることがあれば、随時報告確認を行う。** **・学年間、管理職と情報共有を心がけている。** **電話や連絡帳で子供の活躍や成長をお知らせするだけでなく、お手紙で紹介することも有効と言える。しかし、個人情報を過大に外へ出すことについては十分に気をつける必要がある。**
	14	14 学校生活アンケートや、観察によりいじめ見逃しゼロに取り組んでいる。	2.5	
	15	15 保護者との連絡を密に行っている。	2.46	・電話や連絡帳、学級通信等で、学級の様子を随時伝えるようにする。 ・電話連絡、連絡帳だけでなくリーバーでのメール方法も使用する。 **・保護者のタイプを見極めて、連絡が欲しい保護者には、細かいことでも連絡し、信頼関係の構築に努める。** **・連絡帳や電話連絡、メールで連絡を取り合っている。** **日頃から児童の問題行動に関する連絡だけでなく、進歩や成長など普段取り組んでいる良い行いを伝えるようにしていく。次年度は個人情報などで積極的に伝えていければ良い。**
	16	16 関係諸機関（スクールカウンセラー、教育相談員、児童家庭相談室、児童相談所等）と連携している。※学校として	2.12	・一人で抱え込まないよう、組織で対応する。 ・日頃から学年間の児童の様子を把握し、生徒指導・教育相談委員会等で挙げていく。またケース会議を開いたり、SCや関係機関と積極的につなげていく。 ・各学級の実態によるところが大きいので、一概に良しあしが判断しにくい。 ・関係機関の方が来る曜日、時間を職員室の入り口に事前に貼っておき、話し合いができる日を確認しておく。 ・困ったときには、教育相談の先生や、特別支援コーディネーターなど校内にいる先生に相談することから始める。 ・関係諸機関の先生方と話す時間がないのが現状。そこは課題。 ・相談した内容や心配される児童の把握のためにも共有できる場がほしい。 **一人で抱え込まないように学年間或いは低・中・高などのブロックなどで学級の状況を密にしていき、学級経営の状況をオープンにしていく。何かあったら初動が大事なので、管理職への報告や組織で迅速に対応が必要。また、警察や児童相談所、病院など他機関との連携も遅れずに進めることが事態悪化を防ぐので実践していく。**
	17	17 「学校は命を預かるところ」として事故の未然防止、迅速な対応を行っている。	2.69	
	18	18 学校のコロナ対策を理解し、教育活動を推進している。	2.62	

健康・安全・体力	19	19 子供の発達段階に応じて無言清掃指導を継続している。	2.31	・今年度から、放送委員会が無言清掃ができているクラスを放送したことで、意識が高まった。 ・低学年には難しいが、意識して行うよう継続的に指導する。 ・黒板に無言清掃と書かれたシートを貼るなど見てわかりやすい工夫をする。 ・無言の意識が徹底されていないので、全職員で指導水準をそろえる。 ・校内放送を続けていく。 ・管理職の先生方からの好評もいただけるとやる気アップにつながると思う。 ・本校はよくできていると感じる。放送委員会からの「よく掃除ができていいた」の放送もとても良いと思う。 **清掃する児童以外の児童が放送を通じて評価することで意欲が高まった良い事例。今後も継続しつつ、各クラスで発達段階に応じて集中して掃除に取り組むよう行っていく。**
	20	20 子供の目線で安全点検を実施している。	2.5	
	21	21 体育授業の充実を図り、体力向上に努めている。	2.23	・学年でどんな児童像を目指すか、そのために何ができるかを教材研究する。 ・休み時間は、外遊びを推奨する。 ・朝走る。 ・休み時間は校庭に行くよう呼びかける。 ・ワークシートの充実。 ・体育授業だけでなく、いつでも外に出られる環境を整える。 ・体力向上を目指して活動ができている。また、準備運動も三角小オリジナルのものがあってよいが、全学年取り入れてないように感じる。 **高学年になるに連れて教室で過ごしがち。委員会活動や体調が悪い児童以外は、長い休み時間は進んで外へ出て遊ぶ。マラソン・なわとびなどを奨励して体力向上を推進していく。**
教職員組織	22	22 教職員事故根絶に向けて、日々の言動に気を配っている。	2.5	
	23	23 危機管理の「さしすせそ」を意識している。（さ：最悪を想定し　し：慎重に　す：素早く　せ・誠意をもち　お：組織対応）	2.38	・一人で抱え込まない。すぐ学年主任や管理職に知らせることを繰り返し伝えていく。学校は組織で動くことを意識して行動する。 ・忘れないように貼っておく。 ・必ず管理職に報告、学年間での情報共有を継続する。 ・「す」素早く対応することを常に心がける。対応内容としては、口頭でよいので報告することを一番に考える。 ・相手を助けるつもりで、管理できていないところを確認しあう。 ・意識して取り組めている。 **担任だけで悩まない　担任→学年→管理職　初動の速さが大事。情報の収集と組織での迅速な対応をしていく。**
	24	24 会議、各種委員会の時間を厳守している。	2.19	・今年度は、予定されていた会議が急になくなったり、予定になかった会議が急遽入ったり、バタバタしていた。予定を明確にし、心の準備ができる時間を確保したい。 ・無理な計画を立てない。 ・新年度から日課表変更により守られると思う。現時点では物理的に難しい。 ・議案等は事前に目を通しておくような習慣をよびかける。 ・日課表と合わせる。 ・時間設定の見直し、（下校時刻後１５分はほしい） ・どうしても会議が伸びてしまったり高学年だと、下校の見届けで会議の会時刻がギリギリになってしまう。 **計画には数字が必要なので、事前協議は〇日前までに予定変更は〇日前までに、会議前〇日までに会議資料を配付など計画についての中身を決めておく。**
	25	25 電話や来客に対する接遇に気を配っている。（あいさつ、表情、態度、言葉遣い）	2.65	
	26	26 ワークライブバランスをを推進し、自ら健康に留意している。	2.19	・帰れるときは帰る。自分の時間を大切にする。若い先生も遠慮なく帰れる雰囲気を作る。NO残業デーを設定し、その日はみんな帰る。 ・事務仕事をする教員を増やす。ワークシートや学年だより等、流用できる型を使って業務を減らす。 ・「カエル（帰る）ボード」の活用 ・週1日は早めに退勤する日を職員全体で設ける。 ・計画的に仕事をする。 ・仕事の偏りがないように、人員を増やす。 ・仕事の量が多く、どうしても学校だけでは終わらなく、家庭に持ち帰ったり休日出勤をしてしまう。 **まずは、働き方改革を断行するために、現在行っている業務改革を行い、今まで当たり前とされていた取組を精査する。それと併せて教員は頑張りすぎてしまうので、定期的に早く退庁する日を決めて実施していく。**
	27	27 コミュニケーションを十分にとり、適切な人間関係の醸成を図っている。	2.38	・跳び箱やなわとび等の実技研修兼レクを行う。 ・休憩時間をしっかり設け、お話タイムをつくる。 ・報・連・相の徹底。 ・学校外の行事を多く持つ。 ・よくできている。 **職場でコミュニケーションをとる環境づくり　休暇のとりやすい環境　教職員個々の悩みを打ち明けやすい窓口、担当を作ることが適切な人間関係の醸成につながるものと考える。**

その他意見	・学校行事や校内のことなどを話し合える場が少なく、職員会議以外の企画会議や学年主任会などを月に1度程度、つくったほうがよいと思います。	・日課表の改定をする。 ・人員の確保ができない場合は、教科担任制などで、教材研究の時間を短縮できるように配慮する。また、保護者間の情報交換が盛んなため、各学年でそろえるところは、そろえることが保護者との信頼関係につながる。（学年で行っていることには文句は出にくいが、クラス毎に違うところには、文句が出やすい） ・ICTを活発にするためにも、各クラステレビを常設したほうが良い。 **会議をとる時間が無いため、行事や取組を実施する前に話合いの場を持つことは成功させるために必要。可能な限り事前に話し合う時間をとる。**

学校関係者評価委員の今年度の評価	・おおむね適正に取り組んでいる。